

平成 24 年度第 4 回修習セミナー報告

中国本部修習技術者支援委員会

宮下 和也

広島県 電気電子部門



平成 24 年 9 月 8 日 (土)、技術士会中国本部のある第 3 ウエノヤビル 8 階において、平成 24 年度第 4 回修習セミナーを開催しましたので、ご報告します。

1. 内容

修習技術者支援委員会の金高委員司会により、以下の四氏の体験業務発表がありました。

岡 正臣氏 (建設部門)
双和 祥二氏 (機械部門)
野田 直樹氏 (建設部門)
大村 拓志氏 (建設部門)

各 20 分の発表後、活発な質疑、講評、アドバイスを活発に行われました。

2. 体験業務発表

各発表者は、これから体験論文をまとめるうえで、どのようなまとめ方をすればいいか思案された様子がよく現れた発表でした。

岡氏は擁壁に関する担当業務に求められる技術的特長に絞り込んで説明されていました。担当業務における課題と、業務遂行上で発生する問題点・技術提案が明確に表現できていない点がアドバイスされました。

双和氏は自社のベストセラー装置の改善を発表されました。技術的成果に重点が置かれた発表になったため、双和氏が選択した解決策にいたるまでの問題点と技術的対策への考察がうまく伝わっていないところがアドバイスされました。

野田氏の業務内容は横川駅前というよく周知されていることと路面電車駅を移動させるというダイナミックな解決策もあり聞き応えがありました。しかし、野田氏のかかわった業務や成果が時系列含めて不明瞭とのアドバイスがありました。

大村さんは土石流対策用「えん堤」に関する算出法と実況調査の比較を踏まえた上で、えん堤を新設出来ない土石流レッドゾーン解消方法の検討と結果を発表されました。課題解決に際して発生する問題点に対する対策の自身の専門性や環境への配慮、技術的成果の表現方法に関してアドバイスがありました。

.....

セミナー後の懇親会では、皆さん、発表では触れていない、業務で出会った課題や技術的なポイントを熱弁されたり、実際の体験業務が発表の流れとは異なった点もあることを解説されたりしていました。発表原稿を作成する上で業務全体をまとめる苦労の中で「自らの技術者としての業務」が隠れてしまっているようでした。体験論文作成に際しては、もう一度この辺を見直して「自分の成果と専門性」を引き出されると思います。

3. 修習技術者委員会亀田委員長より

体験業務発表会終わりに委員長が、11月の第5回セミナーで技術者倫理を扱うことと、来年予定されている技術士試験の改定に関して触れ、これからも修習技術者支援への決意と協力をお願いしました。

4. ぜひ合格を

今回のセミナーを参考に、発表者皆様の二次試験突破合格を祈念しています。



セミナー風景